

[ハクモクレン]



花(東京理科大学 植物園 2017/3/16 撮影 by NH)



辛夷(東京理科大学 生薬標本室)

学名：*Magnolia denudata* Desrousseaux

科名：モクレン科

属名：モクレン属

形態：葉は互生し、短柄(みじかえ)。葉身(ようしん)は長楕円形～広卵形。全緑、鋭頭。

また、モクレン属の花は、めしべ・おしべが環状ではなく、らせん状に付くことが特徴として知られている。

薬用部位：つぼみ

生薬和名：シンイ(辛夷) 特有のにおいがし、辛くやや苦い。

漢方処方：葛根湯川芎辛夷、辛夷清肺湯

主要成分：コクラウリン(アルカロイド)、マグノサリン(リグナン)、リモネン(精油)

主な薬効：鎮静・鎮痛作用を示し、鼻炎・蓄膿症・頭痛などに有効である。

- ・ハクモクレン(*Magnolia denudata*)の種小名 *denudata* は、ラテン語の形容詞 *denudatus* : 「裸の、露出した」の女性形。
- ・ハクモクレンの花は上向きに閉じた形で咲く。
また、南側の花弁がふくらむため、花先は北側に向く。
- ・「辛夷」といったら、日本では、コブシ(*Magnolia Kobus*)を指すが、
中国では、ハクモクレンのことを指す。
→ハクモクレンが中国産であり、その代用品(シンイの基原植物)として、
日本ではコブシが使われてきたことに起因している。

～参考文献～

・生薬単 改訂第二版 著：原島広至 NTS出版

2021. 5. 24. 4YP R. K.